



特集 筆者のものもの見方と向き合おう

巻頭
エッセイ

肩書に悩む

角幡唯介

デジタル

古典学習と
デジタル教科書

書写

字源を意識して形を整えよう

平成30年度用
教科書訂正箇所

本誌は、文部科学省による「教科書検定の公正確保について」に基づき、(株)光村図書協会の定めた「教科書発行者行動規範」のこのことに基づき配布しております。

授業にデジタル教科書を！



光村のデジタル教科書がさらにパワーアップ！
国語、英語、美術の授業を強力にサポートします。

光村
デジタル
教科書

指導者用(中学校)

光村「国語デジタル教科書」 DVD版 各72,000円+税
1~3年 ダウンロード版 各23,000円+税

光村「英語デジタル教科書」 DVD版 各75,000円+税
1~3年 ダウンロード版 各24,000円+税

光村「美術デジタル教材」 DVD版 50,000円+税
わくわく美術室 DVD版(1年契約版) 12,000円+税

学校フリーライセンス：校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。

学習者用(中学校)

光村「国語デジタル教科書」 1端末(1年間利用) 各1,500円+税
1~3年

体験版はホームページよりダウンロードすることができます。
www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/

CoNETS®
光村図書は、CoNETS(コネッツ)に
参画しています。

光村図書出版株式会社 www.mitsumura-tosho.co.jp
〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9
TEL:03-3493-2111(代表) 03-3493-5741(デジタル教材お客様窓口)
FAX:03-6721-6884 E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp



光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.179 2017(平成29)年9月16日発行
発行人=小泉 茂 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所=株式会社 加藤文明社 デザイン=mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」の通り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

「ウホウホ」の解釈

早稲田大学教授 森山卓郎
もりやま たくろう

子供のとき、タヌキの腹鼓のような感覚でゴリラの胸たたき(ドラミング)の真似をして遊んだ覚えがある。「ウホウホ」という、あれだ。実物は迫力があるぞうだ。ただし、これは決して戦いの宣言などではないらしい。群れが出会ったときに胸たたきをして、一種の威嚇はするがそのまま別れるという。群れの出發を呼びかけるときなどにもなされるという。多くの人が抱く「好戦的」「リラ像」は誤解なのだ。

人間の動作でも誤解は起こる。どこかの国の人でも、例えば痛そうなお様子などはわかる。だから、身振りなども自然的動作としてなんとなく通じるように思いがちだ。しかし、身振りに一種の「記号」性があることも多い。

ネパールのカトマンズに行ったときのこと。現地の方に写真のシャッターをお願いしたが、その方がカメラを持ちながら、頭を左右に数回かしげ

る(振る)動作をなさった。日本風に解釈すれば、「え?いいのかな?わからないなあ」みたいな動作だ。それで押すところをもう一度示して撮り直していただいたのだが、実はそれは「OK,大丈夫」という意味なのであった。ネパールでの頭をかしげる動作には「記号」性があり、日本人の私の解釈はまったく正反對なのであった。

自然的動作ならばそのまま解釈できるが、このように動作に「記号」性があれば、場合によっては解釈に失敗することもある。「解釈」は解釈する人の枠組みでなされるからだ。ゴリラの胸たたきも、怒りの自然的動作そのものではなく、そつした「記号」性があるといえるだろう。ゴリラ社会で「記号」性のある動きがあり、表示と解釈によるコミュニケーションが成立しているのならば、人類のコミュニケーションの始原を考える上で興味深い

(「記号」の定義は難しいが)。もちろん、人間の言葉は「記号」の最たるものであり、そこに解釈がある。私たちはそつした解釈の共同体の中で生きている。一部でも解釈の枠組みが違つと、そこに「誤解」が生まれる。

学生時代、闇鍋をしたとき、味をみた友人が「あまい」と言った。「何を入れた?」——しかし食べてみると、シユウマイやら納豆やらの混じつた変な味だったと記憶しているが、スイートではなかった。「あまい」は、その友人の方言で「塩味が薄い」という意味だったのである。そのえもいえぬ鍋を囲んでいるとき、今度は別の友人が、突如「ゴリラの胸たたきのような、あの「ウホウホ」に似た動きを始めた。その自然的動作はただちに周囲に正確に解釈され、熱いものを食道に詰まらせた彼は水をもらつて事なきを得た。そつ、「解釈」は重要なのである。

CONTENTS

探検! 言葉の森 33 「ウホウホ」の解釈 ————— 森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う 02 肩書に悩む ————— 角幡唯介

特集 04 筆者のものの見方と向き合う

筆者・山極寿一に聞く——作られた「物語」を超えて ————— 山極寿一

提案1 新聞記事を読んで投書をしよう ————— 坂爪新太郎

提案2 文章構成の意図に迫る ————— 藤井浩史

デジタル教科書 奮闘記 4 16 古典学習とデジタル教科書 ————— 渡辺光輝

先生のための 板書講座 3 20 字源を意識して形を整えよう ————— 坂井孝次

平成30年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

肩書に悩む

作家・探検家
あるいは放浪家

角幡唯介

今から七年前、某大手出版社の新人ノンフィクション賞を受賞して一応物書きとしてデビューというかたちになったとき、その出版社が主催する授賞式によばれたことがある。授賞式は私が受賞した賞だけでなく、小説の新人賞や、直木賞を受賞したような売れっ子作家が対象の文学賞も一緒に、会場も帝国ホテル、各賞の選考委員をつとめる一流作家の先生方や彼らをねぎらう銀座のホステスたちも一堂に会して、それはそれは絢爛豪華な式典だった。

式典の前に私たち新人系の賞を受賞したひよっこ三人が、売れっ子が対象の文学賞を受賞した有名作家と挨拶する機会があった。当たり前だが、その作家への出版社の対応はわれわれとは別扱いで、私は地下鉄と徒歩で帝国ホテルにむかったのに対し、その作家には自宅にハイヤーが回されたことだった。楽屋も別だった。

ひとりずつ挨拶をかわしたが、私はその作家の作品を何作か読んでいただけに、くれないからである。企画課長とか金型職人とかあらかじめ決められたポジションが社会にないので、自分で作らなければならぬ。つまり自称するわけだ。

自称というと自称・探検家みたいに胡散臭いイメージが付きまとうが、べつに悪いことではない。そもそもわれわれのように組織に属していない者の肩書などどこまでいっても自称。事件報道などで警察が容疑者を「自称」などと発表するときなど、一体自称じゃない自由業者など存在するのかと疑問に思うほどだ。自称とは、自分の活動を的確に表現する言葉を見つめることであり、それと実際の活動がマッチすれば肩書として社会的に機能し、このように執筆依頼などがまゝいこんでくる。

探検家と自称することで確実に自分は社会のなかに専用の居場所を確保できている、との感触が私にはずっとあった。ところが、ここ最近、新たな悩みが生まれてきた。どうも探検家という肩書に自分自身が束縛されているのではないかと

順番がまわってきたときは少し緊張した。「〇〇賞を受賞した角幡といいます」と名刺をわたすと、作家は「あ、すみません、私名刺を持っていないので」と言って名刺をくれなかった。

その堂々とした態度に、かつこいいな、この人、と思った。そのとき私ははじめて知ったのだ。そうか、売れっ子作家になると名刺をわたさなくていいのかと。それに比べて私の名刺の貧相なこと。自宅のプリンターで印字したペラペラの紙に、「ライター」ととってつけたような肩書が記されている。格の違いを見せつけられ、こんなもの、むしろわたさないう

いう気がしてきたのだ。

どういうことかといえは、たとえば来年、私は相棒の犬と一緒に、自力で可能なかぎり、できれば三カ月以上、無人の北極の氷原を歩きたいと思っている。正直そこあまり探検的要素はないのだが、探検家を名乗ってしまったら、ついで、そのさほど探検的ではない行為に無理やり探検的な味付けをほどこしたほうがいいだろうかなどと余計なことを考えてしまうのである。

たしかに私はこれまで探検と呼んでもいい旅を何度か行ってきた。しかしこれからやりたい旅がすべて探検かと言われる

が良かったのではないかと少し後悔した。

それ以来、私の肩書は微妙に変遷しつづけた。まず「ライター」を名乗るのをやめた。そもそもその頃、私はライター仕事など一切やっていなかった。そのかわり「ノンフィクション作家・探検家」という肩書にした。ライターも作家も物書きという意味では同じだが、作家を名乗るには別の条件があつて、文章で世界を構築できていなければならない。私は探検行為という実体験を通じて独自の世界を文章化しているわけだから、これがピッタリだ、と考えたわけだ。しばらくそれで通したが、だがこれもそのうち煩わしくなってきた。なにしろこの肩書は長すぎる。ナカグロ含めて十四文字もあるのだ。それで最近「作家・探検家」と称することが多くなった。

私にとってどのような肩書を名乗るのかというのはかなり重要な問題だ。というのも私の場合、探検して文章で表現するという他にあまり類例のない活動をしているため、社会の側から肩書を与えて

ると、そうでもない気もする。来年の計画などはむしろ単なる放浪。そこでいつものこと「放浪家」に肩書を変えてしまおうかと思うことさえあるのだが、それとてちよつと難しい。なぜなら私には家族がいて、最近ではマイホームを購入するなどという決断までしてしまっており、マイホームのある放浪家などあり得ないからだ。である以上、それを名乗るには家族を捨て、マイホーム契約を撤回するしかないわけだが、さすがに肩書にあわせてそこまで人生を変えるのもバカバカしい。それこそ人生が肩書に束縛されることになってしまうのではないか。

肩書とやりたい方向性にズレが生じたとき、みんないったいどうしているのだろうか？

やはり名刺を捨てて肩書から逃れるしかないのだろうか。あるいは自分の過去を引きずって何も変えずに生き続けていくしかないのだろうか。答えの出ない謎である。



角幡唯介
かくはた ゆうすけ

1976年、北海道生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。同大学探検部OB。2003年、朝日新聞社に入社、08年に退職。『空白の五マイル』で、開高健ノンフィクション賞、大宅壮一ノンフィクション賞、梅棹忠夫・山と探検文学賞受賞。『雪男は向こうからやって来た』で新田次郎文学賞受賞。『アグルーカの行方』で講談社ノンフィクション賞受賞。近著に、『探検家の日々』、『幻冬舎文庫』、『漂流』（新潮社）など。

筆者の

ものの見方と

向き合う

三年二期の説明文「作られた『物語』を超えて」
具体的な事例によって、
筆者の主張が展開される論説の文章です。

今号では、この教材に焦点を当て、
筆者へのインタビュー、
二つの教材分析・実践を通して、
筆者のものの見方・考え方を受け止めて
自分の考えをもつ授業について考えます。

筆者・山極寿一に聞く

——作られた「物語」を超えて

「作られた『物語』を超えて」の筆者・山極寿一さんに、
この文章に込めた思い、これからの教育に願うことなどについて、
お話をうかがいました。

文章・濱野ちひろ 撮影・伊東俊介

正当化の手段 としての「物語」

——「作られた『物語』を超えて」では、
人間が身勝手な解釈をもとに「物語」を作
り出すことについて、ゴリラを例に述べら
れています。

霊長類学者として三十年以上前からゴリ
ラの研究に携わってきました。私が研究を
始めた頃はゴリラについては知られていな
いことがまだまだ多く、暴力的で恐ろしい
動物、というイメージがもたれていました。
しかし、それは事実とは異なります。長年
のフィールドワークを通して、私は自分の
目でゴリラの社会を知ることができました。
私の目に映るゴリラは、穏やかで遊び好き
で子育て上手、群れの仲間のみならず周り
の存在とも共存する平和な動物です。

——「物語」という表現には、どんな意味
が込められているのでしょうか。

執筆するにあたって念頭に置いたのは、
芥川龍之介の短編「桃太郎」です。有名な
昔話を鬼の立場から描いたものです。「鬼
が島」で安穩に暮らしていた鬼たちのもと
に、桃太郎が突如として現れる。逃げ惑う
鬼たちを追い立てる桃太郎に、鬼は恐る恐
る、自分たちは何か無礼でもしてしまった





「物語」の裏側には、必ず作った側の意図がある。

のかと尋ねます。すると桃太郎は次のように答えます。「日本一の桃太郎は犬猿雉の三匹の忠義者を召し抱えた故、鬼が島へ征伐に来たのだ」。

身勝手な言い分で何の罪もない鬼を征伐する桃太郎と、被害者となってしまふ鬼。この構図は、ヨーロッパ諸国によるアフリカ諸国に対するかつての植民地支配にそのまま当てはめられます。ヨーロッパ社会はアフリカを「暗黒大陸」と見なし、その「文明化」を大義として武力による制圧を行い、キリスト教を普及させ、植民地支配を進めました。現地の人々がその被害を受けたことは疑うべくもありません。そしてゴリラもまた被害者でした。

——ゴリラのイメージは、そのようにして生み出されたのですね。

そう。植民地支配の陰には、それを正当化するために西洋人によって作られた「物語」がありました。その「物語」をよりリアルに想起させるために巧妙に使われたのが、「凶暴で恐ろしい悪魔」としてのゴリラです。

——「物語」を作ることによって、社会は価値観を共有するのですね。

そうですね。しかし、注意すべき点は、ヨーロッパ社会が必ずしも意図的にアフリカやゴリラの「物語」を作ったわけではないだろう、ということですね。当時、彼らにとっては、それが当然の世界観だった。何の疑問もなく、その「物語」が作られていったのです。それほどに「物語」には強い力があり、いつしか常識となつて人間社会に流通していきます。

多様な価値観を育む教育を
——これからの教育の在り方について、どのようなお考えをおもちですか。

今、世の中では「自己実現」という言葉がもてはやされています。この言葉は生涯の目標をもち、自分にしかできない何かを達成する、という意味です。しかしそれは真の意味で使われているのでしょうか。

現代流の自己実現を突きつめていくと、それは周囲と競合し他者を押しつけて自分

アルに想起させるために巧妙に使われたのが、「凶暴で恐ろしい悪魔」としてのゴリラです。

「物語」のもつ強い力

——人間社会はなぜ「物語」を重視するのでしょうか。

それは、人間が身体よりも言葉を優先するからです。そもそも言葉が生まれたのは今からたつた七万年前のことです。その頃、集団の規模が大きくなり、人間は多くの仲間と効率よくコミュニケーションを取る必要

がトップに立つ、ということになってしまふ。この「物語」の裏側を見れば、自己実現とは、その人が達成した成果を無理やり他者に認めさせるものだということがわかります。

——誰かから認められなにかぎり努力は報われない、ということですね。

ええ。他者に評価を強制してなされる自己実現の「物語」は、価値の一元化の「物語」とも言い換えられるでしょう。多様性を重んじ、創造性を育む世界では、そのようなことはあつてはいけません。特に学問の世界では避けられるべきですし、私の考えでは、学問においては一芸に秀でる必要もありません。むしろ雑多な知識や多様な価値観が必要とされる。一元的な価値基準のもと利益追求型の研究を行うばかりでは、常識をひっくり返すことも、真に革新的なアイデアを生み出すこともできません。競争原理だけに頼るだけではいけないわけです。

現在の日本の学校教育は、到達点を決めて段階的に達成していくシステムになっています。もちろんどんな教科にも基礎知識が必要ですから、この教育方法は間違っていない。しかし、基礎の上で自分なりの考えを発展させるほうが本来は重要で、そういう力は到達度を競う環境では育ちに

要に迫られました。そこで発生したのが言葉です。

言葉とは、事象を分類して記号として示したり、異なる物事を比喩を用いて説明したり、過去の出来事を描写するのに優れた効力を発揮するツールです。「向こうの山には行くな、土砂崩れが起きていて危険だ」という情報を言葉なしに人々に伝えることは難しいのですが、言葉によって「方向」「山」「土砂崩れ」「禁止」「危険」といった概念が抽象化され、意味が共有されていけば、素早くその情報を伝達することができます。このように言葉があるからこそ人間は膨大な情報を交換することができています。

言葉は、ロジカルに現象の因果関係を説明することにもたけています。この因果関係が、「物語」に相当するものです。言葉は「物語」を生み、その「物語」は価値観の一元化と共有を促進します。ヨーロッパは、いくらでも横道にそれながら自由に発想を積み重ねていくことのほうが本来は大事なのです。

やま ぎわ じゅ いち
山極寿一

山極寿一

1952年、東京生まれ。人類学、霊長類学者。京都大学総長。30年以上にわたり、アフリカの各地でゴリラの野外研究に従事。ゴリラ研究の第一人者。著書に、『暴力はどこからきたか』（NHK出版）、『家族進化論』（東京大学出版会）、『ゴリラは語る』（講談社）、『サル化』する人間社会（集英社インターナショナル）など。



インタビューの続きを、小社ウェブサイトに掲載しています。
[光村図書ウェブサイト > 中学校 国語 > 作者・筆者インタビュー] からご覧ください。

提案 1

新聞記事を読んで投書をしよう

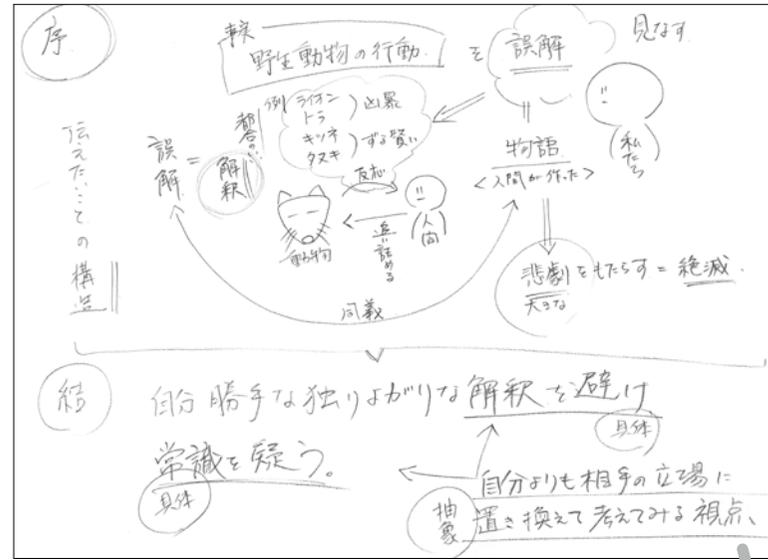
群馬県藤岡市立北中学校教諭 坂爪新太郎

教材分析編 図式化による分析↓ものの方・考え方を活用した表現活動を設定

「分析の観点」①筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目して、主張を捉える。
②筆者のものの方や考え方を踏まえて、人間、社会、自然などについて自分の考えをもつ。

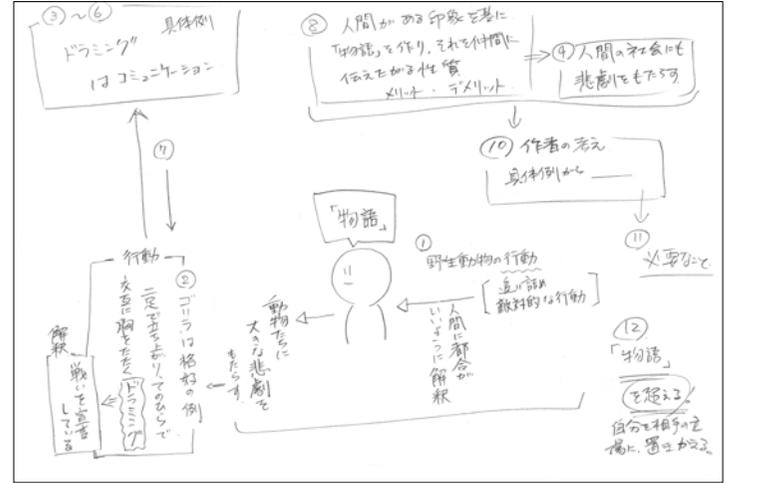
坂爪先生の教材分析ノートを公開!

1 文章の論の進め方を把握する



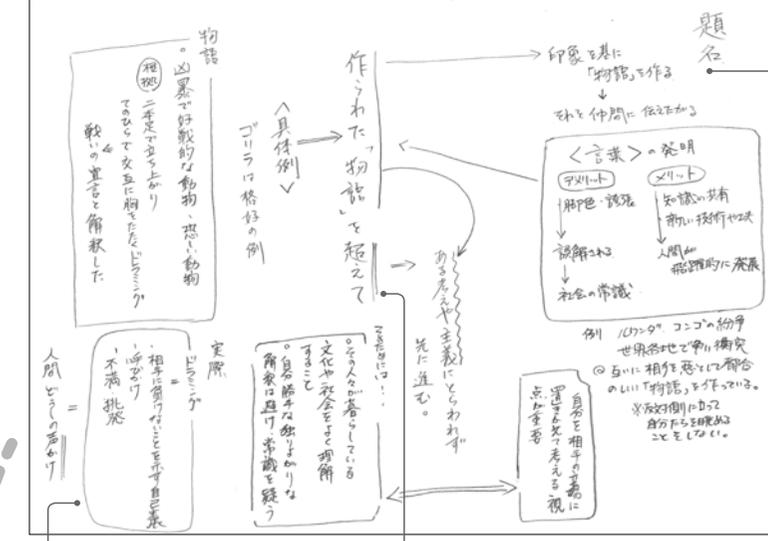
序論に書かれた話題提示を読み取る。特に、提起されている問題点を把握する。文章の中で例としているゴリラの他に、ライオンやトラ、キツネやタヌキなど他の動物について、生徒に印象を語らせてもおもしろい。さらに、結論で述べられている筆者の主張を押さえ、問題点との関係を見いだすことで、論の進め方の大体を把握する。

2 文章の構造やキーワードを捉える



文章全体の構造を「序論・本論・結論」の三部構成に当てはめて把握する。その際、段落や段落のまとまりごとに中心となる語句や文を取り上げ、内容の大体を捉える。

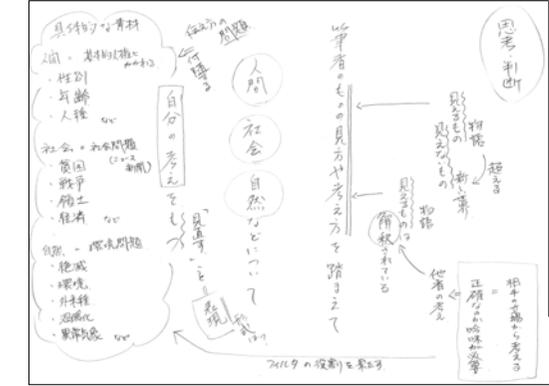
3 生徒がつかずきそうな点を整理する



生徒には、題名を意識した読み取りをさせる。その際、第8・9段落の「人間のもつ言葉の特性とその功罪」について述べた部分は深く掘り下げず、知識として理解させる程度にとどめたい。
ルワンダやコンゴの内戦以外の歴史上の出来事にも視野を広げ、社会科と関連づけながら指導するのもよい。それを通して、筆者の主張である「自分を相手の立場に置き換えて考えてみる」ことの価値を再認識させることができるのではと思う。

ドラミングの正しい意味を踏まえ、人間の自分勝手な独りよがりな解釈について、生徒に理解させたい。
題名から文章を捉え直す。「物語」の文脈上の意味、「超えて」が指す行為を、具体例や叙述を手がかりに捉える。この過程は、生徒の思考・判断を促すものになるかもしれない。

4 目標に照らして、学習活動を検討する



分析の観点①について、「知識・技能」の獲得と結び付けて既習事項を確認する。そのうえで、文章の内容を理解させる手がかりとなる語句・文を書き出しながら整理する。
分析の観点②について、「思考力・判断力」の育成と結び付けて、文章中での筆者の立場を理解させるうえで重要な言葉を書き出す。また、この学習で身につけた思考力・判断力の活用場面を想定して、表現活動を設定する手がかりとする。

1 指導計画 (全六時間)

■目標

- 興味のある新聞記事を取り上げ、それに対する自分の考えをまとめる。
- 「作られた『物語』を超えて」を読み、「物語」「超えて」の文脈上の意味や例示の効果が着目し、筆者の主張を捉える。
- 筆者が、具体例を通して伝えようとしている、真実を知るための見方・考え方を読み取る。

■展開

主な言語活動として「新聞記事に対する自分の意見をまとめ、投書の文章を書く」ことを設定する。本教材から学んだ、もの見方・考え方を活用しながら新聞を批判的に読んだり、それをもとに話し合ったりしながら考えを深める。

第一次 (二時間)

- ・提示された複数の新聞の中から、自分の興味・関心に合った記事を選ぶ。
- ・記事を読み、考えたことや気づいたこと、疑問に思ったことなどをグループで紹介し合う。

- ・記事を切り抜いてワークシートに貼り付け、グループ内で紹介したことを書き込む(ワークシート例参照)。

第二次 (二時間)

- ・文章の構成(序論・本論・結論)を確認し、結論から筆者の主張を見つける。
- ・「物語」の文脈上の意味を具体例を手がかりにして読み取る。
- ・筆者の考える「言葉の発明」と「物語」との関連について理解する。

第三次 (二時間)

- ・題名の「超えて」の文脈上の意味を、筆者の主張から捉える。

第四次 (二時間)

- ・第一次とは別の立場から記事を読み、自分の考えをワークシートにまとめ直し、グループで話し合う。
- ・まとめた内容や話し合っ出した意見を参考に、記事への投書を書く。

師のねらいに合わせて記事を精選して提示するとよい。そこから、自分の興味・関心に沿ったものを選ばせるようにする。
ワークシートには、「記事の内容」「気づいたこと・考えたこと」「疑問に思ったこと」となどの観点を示してまとめさせる。特に、「疑問に思ったこと」は、生徒が新聞に投書をする動機にもなる。「どうして『なぜ』などの言葉をきっかけにしてまとめさせるようにする。

2 重要語句をもとに、筆者の主張を捉える

本教材の題名には、筆者の伝えたいことが端的に表された「物語」「超えて」という語句が使われている。この二つの語句の文脈上の意味を捉えることは、そのまま文章の正確な理解へとつながっていく。序論と結論の内容から、これらは次のような意味として捉えることができる。

「物語」

人間の自分勝手な解釈によって作られ、時に、時間とともに社会常識となってしまうもの。

「超えて」

自分勝手な独りよがりな解釈を避け、常識を疑つこと。

生徒たちは、これらの意味について、文章全体を通してなんとなく感じ取ってはい

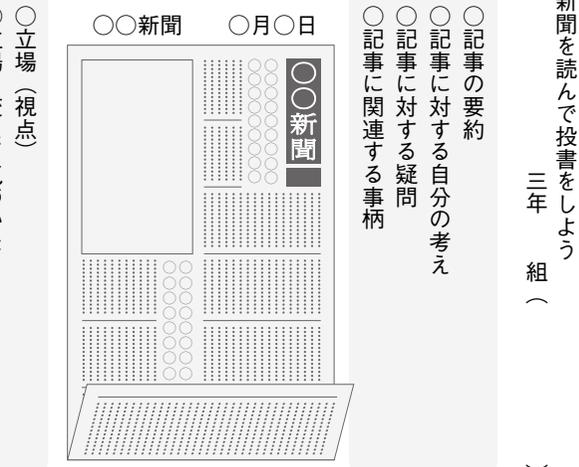
るものの、語句のもつ背景も含めて明確に理解できているとはかぎらない。そこで、語句と具体例とを関係づけながら、その意味を自分の言葉で互いに説明し合う学習活動をとり入れるようにする。例えば「物語」については、序論の「かつてライオンやトラを凶暴な動物、キツネやタヌキをずる賢い動物と見なしていた」という叙述から、その動物たちに対して人間が抱くイメージが「自分勝手な独りよがりな解釈」によるものだと言明することなどが考えられる。

3 新聞記事に対する投書を書く

筆者の主張である「自分を相手の立場に置き換えて」という見方・考え方によって記事を再度読み直したときに、新たな発見をすることが期待できる。その発見を投書としてまとめるために、次のような手順を踏まえる。

① 本教材を学習する前にワークシートにまとめた内容は、どのような立場から書かれているのかを考えさせる。

② 別の立場に視点を置き換えて読み直し、気づいたこと、考えたこと、想像できることをまとめる。



▲新聞記事をまとめるワークシート例

2 指導の工夫・学習の実際

① 記事に対する自分の考えをまとめる

生徒たちは、日常的に多くのニュースを見聞きしているが、その真偽を確かめることなく受け取ってしまう場合が多い。そこで、一つの事柄にもさまざまな見方・考え方が存在することに気づけるよう、複数の新聞社の新聞を用意する。一般紙の文化面や中高生向けの新聞などから、生徒の実態や教

③ 自分が記事をどのように理解しているのか、どの立場から意見を書いているのかを明確にして書かせる。

メディア・リテラシーという観点からも、この学習活動を通して、生徒の、出来事の内容を俯瞰するような視点を養うことを大切にしたい。

3 おわりに

中学校三年生の生徒にとっては、説明的な文章を本格的に学習する義務教育最後の機会となる。だからこそ、文章の内容を理解するだけで終わらせるのはもったいない。

ものの見方・考え方を得ることは、自分たちの世界を大きく変化させるきっかけを得ることもある。生徒には、本教材から学んだ「常識を疑う」「自分を相手の立場に置き換えて考える」という見方・考え方を新聞の投書に生かすことで、実社会とつながり、自らの世界観を広げてもらいたい。そして、そこに他者からの評価が得られたとき、これが社会で生きて働く力であることと実感を得て理解することができるように努める。

生徒たちにとって、国語科の学習がそのまま「生きる力」となることを期待する。

藤井先生の教材構造図を公開!

結論		本論後半 (人間と言葉の性質)				本論前半 (ゴリラ, ドラミングへの誤解と実態)						序論	展開	
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	段落	展開	
<p>具体的な事例なし</p>		<p>具体的な事例なし</p>				<p>それを戦いの宣言と誤解／ハンターの標的／多くのゴリラが命を落とした</p> <p>さらに、檻に鎖でつながれる</p>	<p>ドラミングは自己主張・呼びかけ・不満や挑発／ゴリラは胸をたたいて気持ちを表したり、相手に誘いかけるのである</p> <p>ドラミング／「さあ、出発しよう」と呼びかけ／けんかを制止／メスや子供たちもドラミングをすることがある</p>	<p>ドラミングは自己主張・呼びかけ・不満や挑発／ゴリラは胸をたたいて気持ちを表したり、相手に誘いかけるのである</p> <p>ドラミング／「さあ、出発しよう」と呼びかけ／けんかを制止／メスや子供たちもドラミングをすることがある</p>	<p>ドラミングは自己主張・呼びかけ・不満や挑発／ゴリラは胸をたたいて気持ちを表したり、相手に誘いかけるのである</p> <p>ドラミング／「さあ、出発しよう」と呼びかけ／けんかを制止／メスや子供たちもドラミングをすることがある</p>	<p>ゴリラの群れ／十頭前後でシルバーバックがリーダー／ドラミングは二つの群れが出会ったときによく起きる</p> <p>しかし、めったに戦いにはならない</p>	<p>私が研究しているゴリラは十九世紀の中頃／ヨーロッパの探検家／てのひらで胸をたたくドラミング／おびえた探検家は銃で撃ち殺した</p> <p>私が研究するようになったのは、もう三十年以上も前／まだゴリラは暴力的で恐ろしい動物と考えられていた</p>	<p>野生動物の行動を誤解</p>	<p>筆者の考えを表す語句・表現</p> <p>私たちが「誤解」することがよくある「都合よく解釈」</p> <p>「物語」</p>	<p>筆者の主張</p> <p>「常識＝真実」ではないという問題提起</p> <p>ゴリラのイメージ</p> <p>↓好戦的、凶暴</p>
<p>作られた「物語」を超えて、その向こうにある真実を知ろうとするのが、新しい世界と出会うための鍵なのだ。</p>		<p>人間の見る目がいかに誤解で満ちているかを知ることができた</p> <p>誤解を解くため／相手の立場に立ち、考えることが必要である／常識を疑う態度も必要となる／思いを巡らすことが大切だと思っ</p> <p>人間の社会</p> <p>人間の世界にも悲劇をもたらす誤解を解ける間柄／大きな悲劇を抑える</p> <p>だが、言葉や文化の違う民族の間では「物語」が独り歩き／紛争が絶えない／世界各地で争いや衝突が絶えない</p>				<p>人間がある印象を基に「物語」を作り、伝えたがる性質をもっているから／言葉を発明</p> <p>しかし一方で、言葉には脚色、誇張の力／間違いに気がつかないうちに、社会の常識になってしまふことがよくあるのだ</p>	<p>このように、いろいろな意味をもつことがわかる／私たち人間どうしが距離を置いて声をかけ、互いの気持ちを伝え合うように</p>	<p>ドラミングをするのは群れどうしが出会ったときばかりではない</p> <p>ドラミングに対する誤解</p>	<p>その格好の例</p> <p>凶暴で好戦的な動物と見なした／戦いの宣言と解釈したから／ゴリラを暴力の権化、戦い好きな怪物と見る</p> <p>しかし、大きな間違いだとわかってきた</p>	<p>筆者の考えを表す語句・表現</p> <p>私たちが「誤解」することがよくある「都合よく解釈」</p> <p>「物語」</p>	<p>筆者の主張</p> <p>「常識＝真実」ではないという問題提起</p> <p>ゴリラのイメージ</p> <p>↓好戦的、凶暴</p>			
<p>身につけるべき態度・姿勢</p>		<p>国境を越えて行き交う時代／だからこそ、自分勝手な独りよがりな解釈を避け、常識を疑い／相手の立場に置き換えて考えてみる視点が重要である</p>				<p>人間の世界にも悲劇をもたらす誤解を解ける間柄／大きな悲劇を抑える</p> <p>だが、言葉や文化の違う民族の間では「物語」が独り歩き／紛争が絶えない／世界各地で争いや衝突が絶えない</p>	<p>このように、いろいろな意味をもつことがわかる／私たち人間どうしが距離を置いて声をかけ、互いの気持ちを伝え合うように</p>	<p>ドラミングをするのは群れどうしが出会ったときばかりではない</p> <p>ドラミングに対する誤解</p>	<p>その格好の例</p> <p>凶暴で好戦的な動物と見なした／戦いの宣言と解釈したから／ゴリラを暴力の権化、戦い好きな怪物と見る</p> <p>しかし、大きな間違いだとわかってきた</p>	<p>筆者の考えを表す語句・表現</p> <p>私たちが「誤解」することがよくある「都合よく解釈」</p> <p>「物語」</p>	<p>筆者の主張</p> <p>「常識＝真実」ではないという問題提起</p> <p>ゴリラのイメージ</p> <p>↓好戦的、凶暴</p>			

教材分析編 表で構造を理解↓筆者の意図・述べ方の効果に着目

【分析の観点】 ①筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目して、主張を捉える。

②筆者のものの見方や考え方を踏まえて、人間、社会、自然などについて自分の考えをもつ。

本教材では、人間が言葉によって作り上げた見方・考え方を「物語」と表現している。そして、それが引き起こしたゴリラの悲惨な運命を事実として取り上げ、誤解に基づく「物語」は人間社会にも悲劇をもたらすこと、それを超えるために必要な態度について述べている。

上記の教材構造図から、第四～六段落には、筆者の研究によってわかったゴリラの実態が書かれていることが見て取れる。ここでは、第二～三段落と対比させるように、ドラミングの実態について中心的に取り上げている。これが好戦的な姿の表れではなく、自己主張や呼びかけなど、さまざまな意味をもつことが、全体の四分の一の段落を使って丁寧に説明されている。

第八段落から、「物語」は人間の性質によって作り出されるという、筆者の認識が述べられていく。これ以降、具体的な事実は取り上げられず、主に筆者の考えが書かれていることが、上図からよくわかる。言葉によって「物語」が作られ、それがゴリラを悲惨な運命にあわせたように、人間社会にも悲劇をもたらす。この筆者の主張は、文章前半に書かれたゴリラの具体例によって、より理解しやすくなっている。ドラミングに対する誤解とそれによる悲劇という構図を、前半で丁寧に説明しているからこそ、後半では、人間についての具体的な事実を取り上げる必要がなかったのだといえるのではないか。

第十段落冒頭「アフリカの森で暮らすゴリラの調査を通じて」によって、ゴリラの具体例と人間社会の現状がうまくリンクし、「物語」を超えるために必要だと筆者が主張する態度が、非常に読み取りやすくなっている。

これらの分析を通して、本教材で、筆者がゴリラの具体例を取り上げた意図を捉えることができた。授業では、生徒の初発の感想・気づきをきっかけとしながら、こうした筆者の意図・述べ方の効果を捉えさせ、筆者の主張に迫らせたい。

① 指導計画 (全五時間)

■目標

- 筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目して、主張を捉える。
- 筆者のものの見方や考え方を踏まえて、人間、社会、自然などについて自分の考えをもつ。

■展開

第一次 (二時間)

文章全体の内容を捉える

- ・範読を聞いた後、初発の感想を書く。
- ・音読後、文章を序論・本論・結論に分け、ワークシートに重要語句を書き出しながら全体の内容を把握する。

第二次 (二時間)

述べ方に着目して本論を読む

- ・本論前半(ドラミングへの誤解と実態)を読む。
- ・本論後半から結論にかけて、人間や人間社会について述べた部分を読み、筆者の主張を捉える。

・筆者の主張を踏まえ、ゴリラの具体例が取り上げられている意図を考える(本稿)。

第三次 (二時間)

自分の考えをもつ

- ・学習を振り返り、人間、社会、自然などについて自分の考えを書く。

② 指導の工夫・学習の実際

①初発の感想から、生徒の実態を把握する 生徒の初発の感想には、

- ・ドラミングの本当の意味を誤解されて、ゴリラはかわいそうだ。
- ・ゴリラの運命を変えたものとして、「物語」という言葉は、筆者にとって特別なものだと思う。
- ・今の常識を疑って「物語」を超えることで、新しい世界を知ってほしいというのが、筆者の言いたいことだと思う。

というものが見られた。文章で取り上げられている事実のおもしろさ、それをもとに、筆者が人間社会について考えを主張しようとしていることは、多くの生徒が読み取ることができていたようだった。

その一方で、

- ・後半の筆者の主張を考えると、ゴリラについて書かれた部分が長すぎる。
- ・前半のゴリラのことについては具体例があるが、後半の人間のことについては抽象的な話に感じる。

という感想から、生徒は、筆者がゴリラの具体例を取り上げた意図や効果について十分には気づけていないということがわかった。

このことから、授業では、その意図について考えさせ、「物語」がもたらす人間社会での悲劇や紛争について説得力をもって説明するために、ゴリラの例が文章の中で効果的に使われていることに気づかせることにした。

②筆者の例示の意図について考えさせる

第二次では、筆者の主張を捉えたいうえで、「後半の筆者の主張を考えると、ゴリラについて書かれた部分が長すぎる」という初発の感想を取り上げ、クラス全体で意見を交流した。

生徒A シルバーバックのドラミングは、「ゴリラの語る言葉」という感じがして大事だと思っています。

生徒B ドラミングの誤解についての説明としても必要です。

生徒C 私も、この部分を削ってしまうと根拠がなくなると、説得力が弱くなってしまうと思います。

教師 何の説得力？

生徒C 後半の、筆者の言いたいこと。

生徒D 私も、結論のために、ゴリラの具体例は必要だと思います。人間の人間に対する問題について言うために。

生徒E 第十段落に「ゴリラの調査を通じて」とあるから、ゴリラの例を使って、筆者は考えを述べているんだと思います。

これらをや取り取りを受けてクラス全体に確認したところ、多くの生徒がゴリラの具体例の必要性を認めた。そこで、教師から、本時の主発問を投げかけた。

教師 筆者がゴリラの具体例を取り上げたのは、なぜだろう。

生徒F 第九段落に「人間の社会にも」と書いてある。「にも」だから、ゴリラに対する誤解の話が人間にも当てはまるとい

ことになります。

生徒G さっきDさんが言ったように、結論では人間どうしの態度のことを言っているけど、ゴリラの例のおかげで、それがわかりやすく感じます。

教師 ゴリラの具体例があることに對して、人間の具体例がないのはどう思う？

生徒H いらなと思います。ゴリラの例で人間社会のことも説明できているから。

生徒I Fさんが言った第九段落に、「言葉や文化の違う民族の間では」とあって、人間どうしても、コミュニケーションが取れなかったら、「物語」によって争ってしまふことがあると書かれている。この部分でゴリラの「物語」と似ているから、人間の例はなくてよいと思います。

生徒たちは、筆者が、人間社会のことを説明するためにゴリラの具体例を取り上げたという論理展開を捉えていった。人間の具体例がないということに対しては、生徒H・Iのように、ゴリラの具体例が、人間社会における問題についてわかりやすく説明する役割を果たしていると感じる生徒が多くなった。

人間が誤解に基づいて作り上げた「物語」によって、争いや紛争が絶えないというこ

と、そういった「物語」の真実を知るために必要な態度や考え方が結論に書いてあること、それをわかりやすく示すために筆者がゴリラを例に取り上げたこと。このような論理展開を考ええる学習活動を通して、生徒たちは、筆者の主張や構成の意図を読み取り、第三次で自分の考えをもつことに生かすことができたように思う。

③ おわりに

授業後、生徒の振り返りには、「最初に読んだときは、結論として伝えたいことがよくわからなかったけど、ゴリラの例が人間社会の紛争について言うために書かれていて、説得力を増しているということがよくわかった」というものがあった。筆者がゴリラの具体例を取り上げた意図が、論理展開を追いかける中でだんだんと見えてきて、納得できたのだろう。

本実践で、教材構造図を作ったことにより、授業を組み立てることができた。今後も、構造図をもとにその教材の特性を適切に捉え、指導に生かしていきたい。

古典学習とデジタル教科書

デジタル教科書は、その使い方によって、古典の学習をさまざまに支えてくれる強力なツールにもなります。今回は、古典に親しむための活用のしかたをご紹介します。

1 古典の学習とICTは相性がよい？

意外に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、古典（伝統的な言語文化）の学習とデジタル教科書をはじめとしたICTはとても相性がよいと、私は思っています。

まず、文章、画像、動画など、古典に関連する参考資料は、今、インターネットを使えば簡単に、大量に手に入れることができます。しかも古典の原文なら著作権の心配はなし！安心して資料を使うことができます。

もう一つは、多彩な学習活動に対応することができるという点です。古典の授業を「音読して↓説明して↓終わり」とするわけにはいかないですね。生徒が

さまざまな学習活動を通して「古典に触れ、親しむ」ことができるようにするのが、中学校段階で求められる古典の学習です。とはいえ、生徒にとって、古典の世界は予備知識も少なく、身近でもない。親しめるようになるためには、いくつかのハードルがあることも事実です。そこで、古典に対する抵抗感を払拭するためのさまざまな学習活動が、これまでに開発されてきました。

古典に親しむための学習活動の例

- ① 身体で味わう
音読・朗読・暗唱
群読・劇化
- ② 書き換える
「現代版○○」
なりきりインタビュー
日記・新聞・ニュース番組

2 デジタル教科書で古典の学習がどう変わる？

① ゲーム感覚で楽しく暗唱

古典の学習で私が大切にしているのは音読・暗唱です。教科書に掲載されている作品の冒頭くらいは、暗唱するくらい体にしみこませて卒業させたいものです。しかし、ただ「覚えよう」と指示するだけでは、活動が単調になり、生徒の興味を十分引きつけることは難しいと考えています。

そこで、私はデジタル教科書に収録されている「暗唱してみよう」というワークを使ってみました。これは、本文の一部分をマスキングすることができる、暗唱支援ツールといえます。暗唱のレベルが六段階に分かれていて、マスキングする部分を増やしたり減らしたりすることができますという仕掛けになっています。このワークを取り入れることで、ちょっとしたゲーム感覚で、何度も繰り返し暗唱にチャレンジをすることができ、歴史的画面への書き込みもできるので、歴史的仮名遣いや係り結びなど、注意すべき語句を示すこともできます。

古典学習を支援するICT活用の例

- ・ 関連資料（映像・文章）を見る。
- ・ インターネットで情報を集める。
- ・ 音読・朗読の音声を聴く。
- ・ 音読・朗読しているところを撮る。
- ・ 写真・動画などと古典作品を組み合わせて発信・交流する。
- ・ フラッシュカード、クイズ、かるたなどのゲームで遊ぶ。

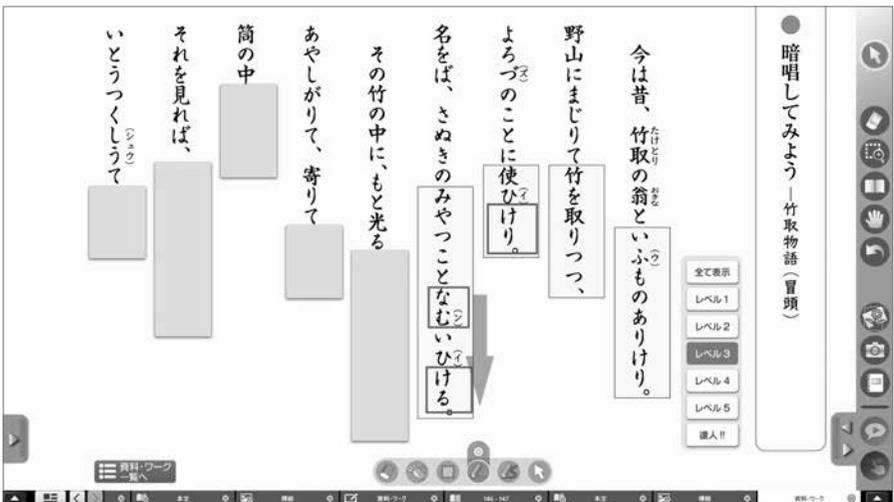
他にもまだまだありますが、これらをよく組み合わせて学習活動を作り上げていけば、生徒にとって、楽しく古典に親しむ授業になると思います。

- 続き話、歌物語
現代語訳
- ③ 古典の世界を知る
時代背景などを調べる
さまざまな現代語訳を読む
解説書、注釈を読む
他の章段、場面を読む
当時の生活を体験する
- ④ 遊ぶ
ことわざ、百人一首などのかるた
パロディーづくり
など

以前、ある中学校で拝見した「扇的」の授業が忘れられません。先生はこの『平家物語』の世界を生徒に味わわせるために、ある工夫をしました。「十二束三伏」のかぶら矢を用意して（もちろん複製ですが）、廊下の奥へ四十間あまり（約



千葉県生まれ。千葉大学大学院修了。千葉県の公立中学校教諭、千葉大学教育学部附属中学校教諭を経て、現職。共著書に『中学生を作文好きにする！新レシビ60&ワークシート』（明治図書出版）など。



◀「蓬萊の玉の枝——『竹取物語』から」（1年）のワーク「暗唱してみよう」に書き込みを入れた画面。

② 「原文と現代語訳」 ツールで音読練習

もう一つ、音読練習に便利なのが「原文と現代語訳」というツールです。これは、右に原文、左にその現代語訳が並べて表示され、原文に添えられたスピーカーマークを押すことで、その部分の朗読音声聞くことができる、というものです。現代語訳は、初期画面では全てマスキングされており、マスキング部分や「全て表示」ボタンを押すことで、そのマスキングを外すこともできます（右下図）。

このツールは、指導者用デジタル教科書上で、教室全体で示すように使ってもよいのですが、やはり一人一台環境で学習者用デジタル教科書が使える状態だと、より効果的な活用が期待できます。生徒はそれぞれに音読練習をしながら現代語訳を参照します。音読でつかえたことや読み方がわからないところは、スピーカーボタンを押してその部分の読み方を確認します。特に引つかかるところやチェックしておきたいところは、スタンブで印を付けた書き込みを入れたりして後で確認できるようにしておきます。これを何度も繰り返す中で、音読に習熟し、言葉の意味も自然に理解できるよう

になっていきます。

このように、一人一台という環境を整えば、より個に応じた学習ができるというのもデジタル教科書の優れた点だと思います。

③ 課題をもった動画視聴で作品世界をイメージ

私が古典の授業で難しさを感じているのが、その作品世界のイメージをどうやってつかませるかということです。ここで、デジタル教科書に収録されている多様な資料が役に立ちます。

例えば「枕草子」(二年)には、「春はあけぼの」の朗読とともにイメージ画像が流れる映像資料が収められています(左下図)。これを見れば、言葉の意味が多少わからなくても、情景をつかむことができます。「まいて雁などのつらねたるが」といっても、地域によっては雁の姿を見たこともない生徒がほとんどだったりするので、こうした映像はとても助かります。

また、「蓬萊の玉の枝——『竹取物語』から」(二年)ではこんな学習をしました。デジタル教科書には、「かぐや姫と五人の貴公子」という映像資料が収録されて

基礎知識を学ぶことができます。短時間で取り組めるので、学習の合間のちょっとした息抜きにもなります。

3 古典の多彩な学習活動を支えるデジタル教科書

今回は、古典教材に関連したデジタル教科書のさまざまな活用のしかたをご紹介します。多様な資料やツールが収録されているので、何を使えばよいか迷ってしまいうのですが、どのようなねらいの下で、どんな学習活動の中にこれらを位置づけるかが授業づくりの腕の見せ所だと思います。

「古典を読む」「古典の世界を知る」「古典を自分の考えや生活に生かす」など、古典の学習にはさまざまな切り口があります。生徒の実態に合わせて、古典を楽しく学ぶことができるようにアレンジしていきたいですね。

まずはデジタル教科書を自分でも触ってみて、教師自身がデジタル教科書を楽しんでみてはいかがでしょうか。

「扇的——『平家物語』から」(二年)であれば、琵琶奏者による弾き語りの映像(右下図)はぜひとも見せたいものです。『平家物語』がどんな人たちによって受け継がれてきたのか、その姿を琵琶の響きとともに味わうことができます。この映像もおすすめてです。

④ 意外に便利！フラッシュカード

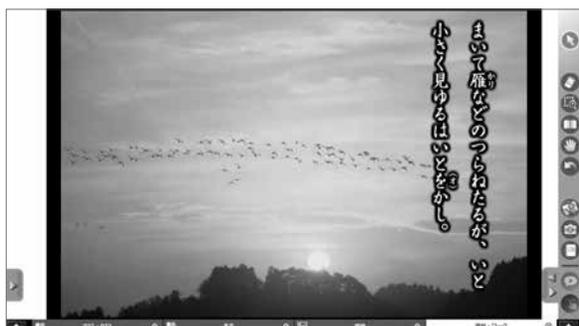
最後に、これも便利だなと思っているのが「古典のフラッシュカード」です(左下図)。全学年・全教材共通で使うことができ、毎時間、これに取り組むことで、歴史的仮名遣いや古語、百人一首などの



▲古典のフラッシュカード「歴史的仮名遣い」



▲「扇的——『平家物語』から」(2年)の資料「琵琶奏者による弾き語り」[扇的]



▲「枕草子」(2年)の資料「『枕草子』—四季を味わう」



▲「蓬萊の玉の枝——『竹取物語』から」(1年)の「原文と現代語訳」の画面。

国語 平成30年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成30年度用教科書では、平成29年度用教科書から以下の箇所を訂正いたします。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご注意くださいようお願い申し上げます。

なお、教科書の訂正に伴いまして、教科書紙面やその内容を含む各種指導書につきましても、訂正を必要とする箇所が生じます。合わせてご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

学年	ページ	行など	29年度	30年度
1年	74	脚注9	日本やアメリカ、ロシアなど世界十五か国が協力して建設された有人実験施設。	日本やアメリカ、ロシアなど世界十五か国が協力して建設した有人実験施設。
	92	2段目4	茨木のり子 他編	茨木のり子 他編
	142	脚注7	旧暦八月は、現代の十月ごろにあたる。	旧暦八月十五日は、現在の九月から十月ごろにあたる。
	155	4段目5	自ら巣に行き、子安貝を取ろうとするが、手にしたと思った瞬間はしごから落ちてしまう。	自ら巣の中の子安貝を取ろうとするが、手にしたと思った瞬間、落ちてしまう。
	183	4	耳を澄ませてみてほしい。	耳を澄ましてみてほしい。
	2年	33	出典欄3	適切な表現を通して、
73		筆者欄	大岡 信 一九三一（昭和六）——	大岡 信 一九三一（昭和六）—— 二〇一七（平成二九）
196		1	帰って来い。	帰ってこい。
219		3	凜とした	凜とした（正字に）
277		注③3	「五重塔」は一八九一年に書かれた。	「五重塔」は一八九二年に刊行された。

3年	28	著書欄	「父と暮らせば」	「父と暮せば」
	57	修学旅行記の紙面例左下	A.心静かに座り、精神を集中させる修行方法です。	A.心静かに座り、精神を集中させる修行方法です。
	68	脚注7	行脚 僧が修行のために諸国を巡り歩くこと。	行脚 僧が修行のために諸国を巡り歩くこと。
	142	13	(恋歌上)	(恋歌二)
	147	下8	三里に灸をすえる	三里に灸を据える
	166	下10	〈例〉新聞〔シン・ブン〕→音・音	〈例〉新聞〔シン・ブン〕→音・音
265	3段目（「日本文学」欄）6	五重塔 [幸田露伴] 一八九一	五重塔 [幸田露伴] 一八九二	

光村図書ウェブサイトのご案内

日々の授業に役立つ資料や読み物を多数ご用意しています。

■ 国語

「教材別資料一覧」「リンク集」「わたしの授業（指導案）」など、国語の教材研究や授業づくりに役立つ資料が満載です。

■ みつむら web magazine

「そがべ先生の国語教室」「通常学級での特別支援教育」など、明日の授業に役立つ読み物を、日々更新しています。

今すぐアクセス！



各コンテンツはスマートフォンにも対応しています。移動中の電車の中で、外出先で、ぜひご覧ください！



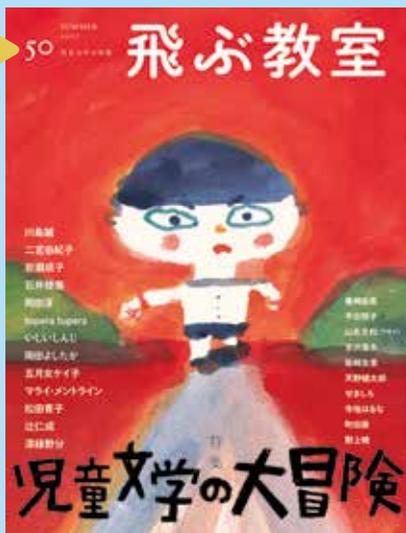
児童文学の冒険

飛ぶ教室

年4回(1・4・7・10月25日)発行

「飛ぶ教室」は、石森延男、今江祥智、尾崎秀樹、河合隼雄、栗原一登、阪田寛夫各氏が編集委員となり、子どもの本と子どもの文化を掘り下げる総合誌を目ざして、1981年に発刊した児童文学雑誌です。

最新号!



■第50号(2017夏)

特集「児童文学の大冒険」

定価：本体1,000円+税 / ISBN978-4-8138-0001-9

誌上ワークショップやリレー創作といった実験的な試みの企画をはじめ、初めて子ども向けの作品に挑戦した作家による創作など、節目の号ならではのスペシャルな内容でお送りします。

〈誌上ワークショップ〉 tupera tupera / いしいしんじ / 岡田よしとか / 五月女ケイ子 / マライ・メントライン

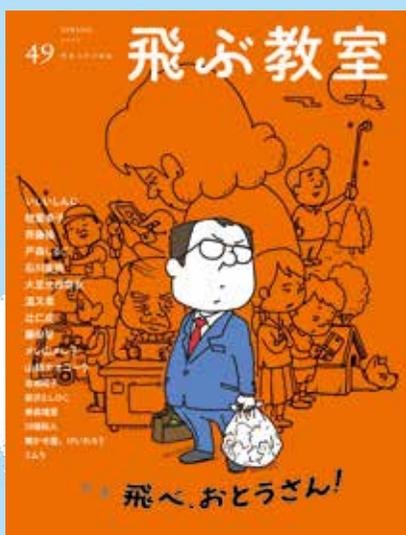
〈リレー創作〉 川島誠 → 二宮由紀子 → 岩瀬成子 → 石井睦美 → 岡田淳

〈創作〉 辻仁成 / 深緑野分 / 松田青子

〈エッセイ〉 天野健太郎 / 柴崎友香 / せきしろ / 寺地はるな / 豊崎由美 / 平田明子 / 町田康 / 宮沢章夫 / 山名文和 (アキナ)

〈ブックガイド〉 17名の書店員

〈「飛ぶ教室」50号までの冒険〉 野上暁



■第49号(2017春)

特集「飛べ、おとうさん!」

定価：本体1,000円+税 / ISBN978-4-8138-0000-2

おかあさんでも、おばあちゃんでも、おじいちゃんでもない。今回の主役は、おとうさん! 童話という舞台でなかなか活躍の機会が少ないおとうさんにスポットライトを当てました。

〈表紙〉 ヨシタケシンスケ

〈歌〉 新沢としひこ

〈創作〉 いしいしんじ / 柏葉幸子 / 斉藤倫 / 戸森しるこ

〈エッセイ〉 石川直樹 / 大豆生田啓友 / 温又柔 / 辻仁成 / 藤田智 / メレ山メレ子 / 山崎ナオコ

〈書評〉 岩瀬成子

〈ブックガイド〉 兼森理恵 / 川端裕人 /

聞かせ屋。けいたろう / ミムラ

平成30年度「言語教育振興財団」研究助成金一般公募のお知らせ

一般財団法人「言語教育振興財団」では、小・中・高等学校、大学、教育研究団体等を対象とし、今後の情報化・国際化・多様化の進展を踏まえ、言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

助成内容	①言語教育の内容・方法に関するもの（教育内容・方法部門） ②言語教育教材の質的向上に関するもの（教材部門） ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの（教育機器部門）
研究期間	平成30年4月～31年3月（原則1年間）
応募資格	言語教育（国語、英語、日本語等）に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体（学校の学年・教科単位を含む）、上記に準ずると見做される団体及び個人
助成件数及び金額・助成金の使途	助成件数は60件程度 助成金額は1件につき原則として、20万～40万円 助成金の使途は、研究を主とするものに限りま。
応募方法・締め切り	・研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、別に定める「助成金交付申請書」を、平成29年12月22日（金）必着で、当財団事務局に郵送のこと。 ・「助成金交付申請書」を希望される方は、返信用封筒（82円切手添付）を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。 ・この応募要項については、都道府県教育委員会等の推薦の場合も同様に扱います。
決定・発表	当財団「選考委員会」にて選考を行い、選考結果は平成30年2月末までに文書にて通知します。平成30年3月末に銀行振り込みで交付します。
問い合わせ先	一般財団法人言語教育振興財団 事務局 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL & FAX 03-3493-7340 E-mail:gengo-k@star.ocn.ne.jp

光村図書出版株式会社

●バックナンバーの詳細内容は、光村図書ウェブサイトをご覧ください。www.mitsumura-tosho.co.jp

●ご注文は、お近くの書店、またはオンライン書店でどうぞ。